CHIBA UNIVERSITY

アカデミック・リンク 教育・学修支援専門職養成プログラム
ACADEMIC LINK PROFESSIONAL STAFF DEVELOPMENT PROGRAM for EDUCATIONAL and LEARNING SUPPORT

大学教育イノベーション日本（HEIJ）
第５回 大学教育イノベーションフォーラム

千葉大学のFD・SDの取り組みと展望

我妻鉄也（千葉大学 アカデミック・リンク・センター）

本日の内容

はじめに

１．千葉大学アカデミック・リンク・センターについて

２．千葉大学アカデミック・リンク・センターにおけるスタッフディベロップメントの取り組み

３．コロナ禍におけるSDプログラムの対応

４．今後の課題と展望

はじめに

・本発表では、「千葉大学のFD・SDの取り組みと展望」という題目の下で発表を行うが、時間的制約から、発表者の所属部局である千葉大学アカデミック・リンク・センターでのSDの取組に焦点を当てて発表を行うことをご了承願いたい。

・本学からは、千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター、千葉大学アカデミック・リンク・センターの2組織が「大学教育イノベーション日本（HEIJ）」に加盟しています。

・本発表では、千葉大学アカデミック・リンク・センターによる「アカデミック・リンク教育・ 学修支援専門職養成プログラム（ALPSプログラム）」の新型コロナ禍への対応がもたらしたSDの地域間格差の解消（本フォーラムの論点「FDとSDの遠隔受講の意義」に記載）を中心に報告していく。

1．千葉大学アカデミック・リンク・センターについて

・千葉大学アカデミック・リンク・センターは、2011年4月に、附属図書館、総合メディア基盤センター（現・統合情報センター）、普遍教育センター（現・全学教育センター）が協力して学内共同利用機関として創設。2020年現在、「デジタル・スカラシップ開発部門」「学習支援高度化部門」「リサーチコモンズ推進部門」「IR・FD・SD連携部門」「教育・学修支援専門職養成部門」の5部門から構成されている。

・「生涯学び続ける基礎的な能力」「知識活用能力」を持つ『考える学生』を育成する「アカデミック・リンク」のコンセプトを実現するために、人的支援、学習環境整備、コンテンツの充実という3要素の有機的な結合を中核に、学生に対する分野別学習相談・学習支援、授業等の録画・配信支援、デジタル教材の作成支援といった教育・学習支援に取り組んでいる。

・2015年7月に「教職員の組織的な研修等の共同利用拠点（教育・学修支援専門職養成）」（2015-2016年度）として教育関係共同利用拠点に認定。2016年7月には「教育・学修支援専門職を養成する実践的SDプログラムの開発・運営拠点」（2017-2021年度）として再認定。

２．千葉大学アカデミック・リンク・センターにおけるスタッフディベロップメントの取り組み

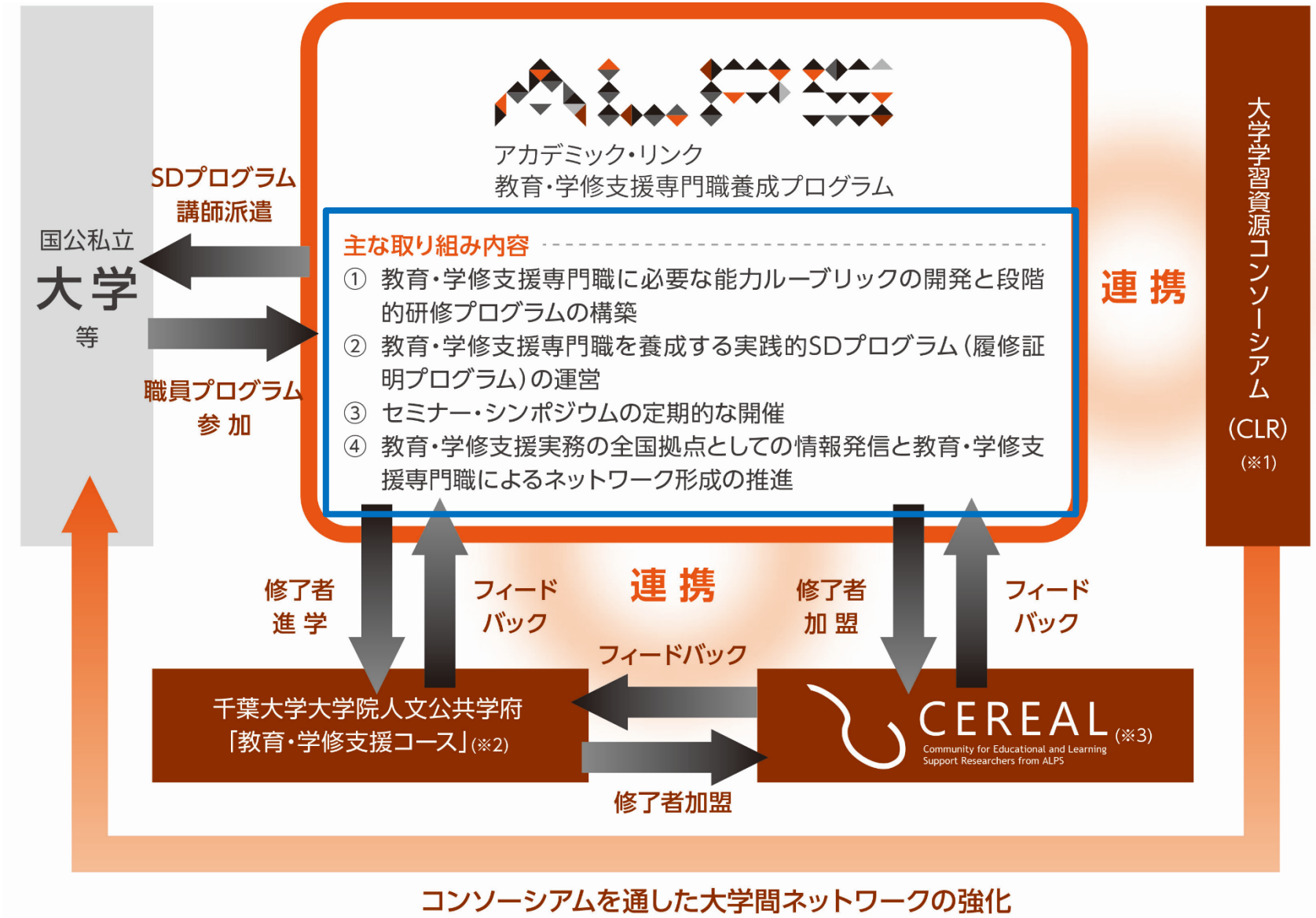
（１）アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成プログラム（ALPSプログラム）の取り組み

① ALPSプログラムとは

・教育関係共同利用拠点の事業で取り組む活動を「アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成プログラム」（Academic Link Professional Staff Development Program for Educational and Learning Support: ALPSプログラム）と称している。

・これからの大学に必要とされる新たな専門的職員として、「高度な実践力」と「体系化された関連知見」と「新しい教育の開発・企画力」を有する教育・学修支援専門職の確立と養成を目的とした研修プログラム

②アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成プログラム（ALPSプログラム）の全体像



（※1）
大学教育の質的向上を図るために、電子的学習資源の製作、共有化を促進し、また学習・教育において著作物を最適に利用できる環境を整備するための取り組みを行っている大学間コンソーシアムです。

（※2）
千葉大学大学院人文社会科学研究科は、2017年4月に、人文公共学府に改組しました。改組にともない、人文公共学府修士課程人文専攻のなかに、大学における教育・学修支援者の養成に特化した「教育・学修支援コース」を設置しました。

（※3）
現在、ALPSプログラムの修了者を中心とした、大学における教育・学修支援を職務とする方による「教育・学修支援専門職能団体」の組織化を推進しています。このためのプラットフォームとして、「CEREAL」という団体が発足し、専門職としてのネットワーク形成と相互研修に向けた検討を進めています。

（2）教育・学修支援専門職を養成する実践的SDプログラム（履修証明プログラム）について

①ALPS履修証明プログラムの概要

・教育・学修支援の専門性を高めるための体系的な研修プログラムとして、2016年度の試行（3テーマ）を経て、2017年度から履修証明プログラムの本格実施。

・「教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック」の6領域に対応するかたちで、15テーマを設定し、各テーマ8時間、全体で120 時間以上の研修プログラム。

・全てのテーマの履修者に対しては、学校教育法第105条に基づく履修証明書を発行。

・平成30年度「職業実践力育成プログラム」（BP）に認定。

・令和2年度厚生労働省「教育給付訓練制度」専門実践教育訓練給付金対象講座に指定。

【基盤的テーマ】対面授業の様子

Brush up Program
for professional

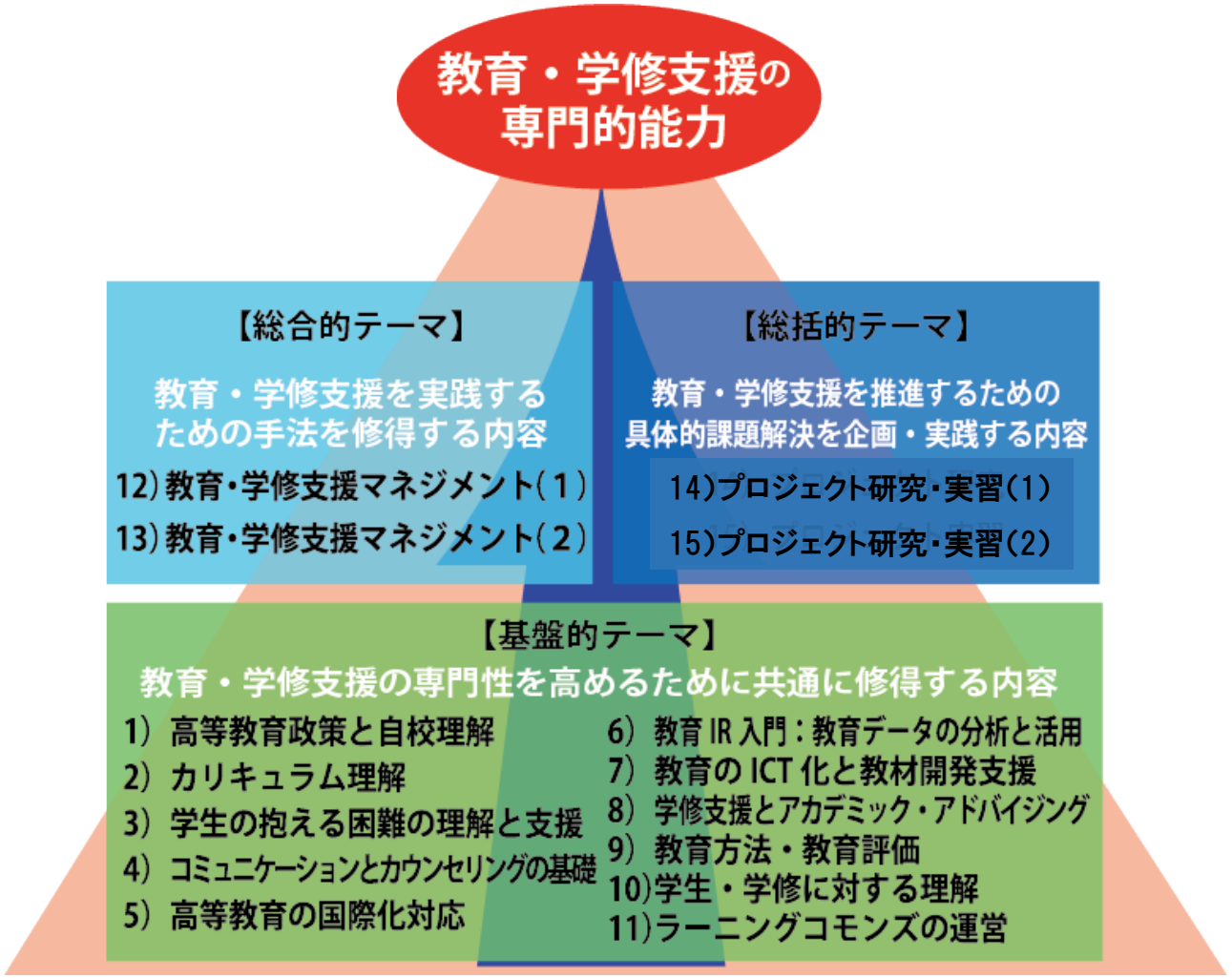
②ALPS履修証明プログラムの内容

・15テーマを【基盤的テーマ】【総合的テーマ】【総括的テーマ】に区分

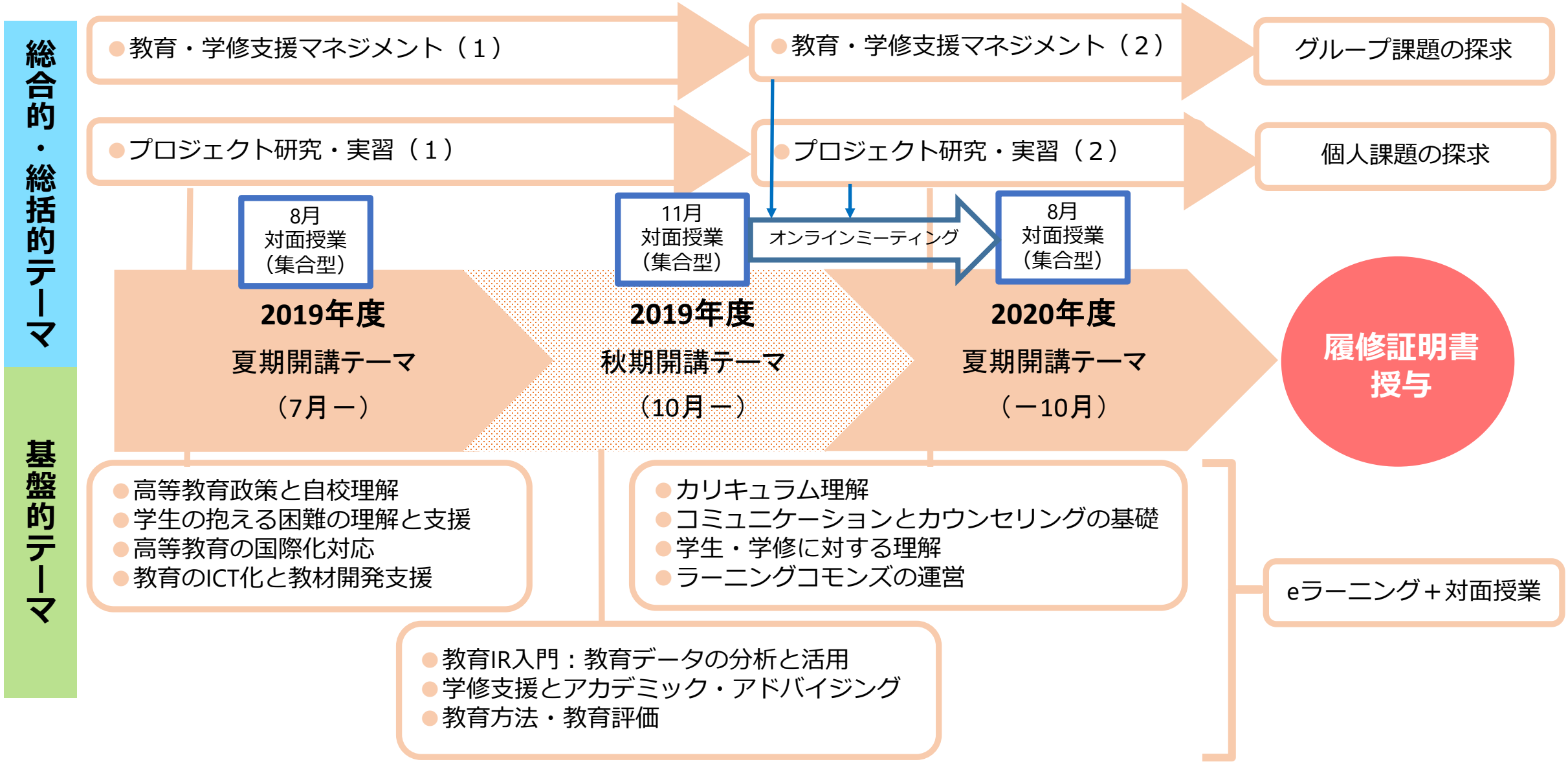
【基盤的テーマ】
教育・学修支援の専門性を高めるために共通に修得する内容として、11のテーマで構成

【総合的テーマ】
履修生同士のグループワークを通じた探求学習により、教育・学修支援を実践するための手法を修得する内容

【総括的テーマ】
教育・学修支援を推進するために、個々の履修生が自らの職務・問題意識の中から具体的なテーマを設定し、実践的にその高度化を図ることで、具体的な課題解決を企画・実践する内容



受講の流れ＜2019年度生（第3期生）＞（通常の場合）



④ALPS履修証明プログラム履修生の状況

・ALPS履修証明プログラムの対象者

現在、教育・学修支援に携わっている/今後携わりたいと考えている大学教職員、大学院生、その他関係者

・募集定員：30名

・2017年度（第1期）履修生：31名（12都府県）

・2018年度（第2期）履修生：14名（10都道府県）

・2019年度（第3期）履修生：17名（10都府県）

【基盤的テーマ】対面授業受講の様子

【総括的テーマ】対面授業受講の様子

⑤修了生による活動

・2019年3月に初めての修了生25名を輩出

・修了生を中心とした団体CEREAL（Community for Educational and Learning Researchers from ALPS）が発足
同窓会組織と教育・学修支援専門職団体の2部門から構成

・2019年8月の夏期対面授業時には、設立総会とアニュアルミーティングを開催。
また、総合的テーマ「教育・学修支援マネジメント（1）」のグループワークに参加し、助言を行う。

・2020年1月には、Bit Meetingを開催。修了生及び履修生が研究や実践の報告を行う。

・2019年には、CEREAL代表者（修了生）を教育・学修支援専門職養成部門運営委員会（学内及び学外の有識者から構成）の委員に委嘱。同委員会にてプログラム運営に対して助言をいただいている。

ALPS履修証明プログラム修了生の集い

“CEREAL”のご紹介

“CEREAL”(Community for Educational and Learning Support Researchers from ALPS)はALPS履修証明プログラム第Ⅰ期修了生を中心に発足した、同窓会組織です。また、教育・学修支援専門職能団体（教育・学修支援専門職によるネットワーク）の基幹団体として、教育・学修支援に携わるすべての教職員の方々にとっての、「知識の集合体」としての役割を担うことを将来的なミッションとしています。

CEREALの基本構想

教育・学修支援専門職のプラットフォームとして，全国の教育・学修支援専門職のネットワークを形成します。

千葉大学アカデミック・リンク・センターでは，日本の大学教育の高度化のために，教育・学修支援に高度な専門性を有し，「高度な実践力」と「体系化された関連知見」と「新しい教育の開発・企画力」を有する新たな教育・学修支援専門職の養成プログラム（ALPSプログラム）の構築と養成に取り組んでいます。

私たち『CEREAL』は，このALPSプログラムの重要な活動内容の一つである，「教育・学修支援実務の全国拠点としての情報発信と教育・学修支援専門職によるネットワーク形成の推進」を実現すべく，発足されました。

CEREALの主な活動内容

「同窓会組織」，「教育・学修支援専門職団体」2つの部会にて活動を進めてまいります。

同窓会組織

千葉大学アカデミック・リンク・センター主催「アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成履修証明プログラム（ALPS履修証明プログラム）」修了生による同窓会組織です。情報交換やアニュアルミーティングなどを通じ，修了生の継続的な研鑽の場として活動することを目的としています。
また，それぞれの職場で切磋琢磨し，やがて講師としてALPS履修証明プログラムへ戻ってくることを中期的な目標としており，優れた実践を通じた「生きた学び」の提供の場としての活動を想定しています。

教育・学修支援専門職団体（構想準備中）

これからの高等教育において，教育・学修支援業務の必要性はますます高まっていくものと予測されます。
専門職の育成には，ALPS履修証明プログラムの修了に加え，継続的な研鑽による新たなキャリア形成が必要といえます。
私たちCEREALではアカデミック・リンク・センターと連携し，教育・学修支援専門職団体の基幹組織として活動し，情報発信や調査研究，知識の体系化等を通じ，全国の高等教育における教育・学修支援業務の発展に寄与していきます。

CEREAL
Community for Educational and Learning Support Researchers from ALPS

CEREAL事務局
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33　千葉大学附属図書館内
E-mail ： cereal.alps@gmail.com

（3）セミナー・シンポジウム（ALPSセミナー・ALPSシンポジウム）の開催

①セミナー・シンポジウムの開催状況（2019年度）

・ セミナー4回、シンポジウム1回

実施回 （実施年月）	セミナー・シンポジウム タイトル	講師 （肩書は開催当時）
第1回ALPSセミナー （2019年7月）	深い学びを支えるアカデミック・ライティングと思考力 －自律した学習者の育成に向けて－	井下千以子氏 （桜美林大学教授）
第2回ALPSセミナー （2019年9月）	ICTを活用した教育はどのような成果をもたらすか －早稲田大学大学総合研究センターの取り組みを踏まえて－	森田　裕介 氏 （早稲田大学人間科学学術院 准教授・ 大学総合研究センター副所長）
第3回ALPSセミナー （2020年1月）	障がいのある学生への学修支援のあり方を考える	村田　淳 氏 （京都大学学生総合支援センター 障害学生支援ルーム チーフコーディネーター・准教授） 野口　武悟 氏 （専修大学文学部ジャーナリズム学科 教授）
第4回ALPSセミナー （2020年2月）	「国際共修」によるグローバル人材育成 －国内学生と留学生を分断しない意味ある実践の構築－	末松　和子 氏 （東北大学高度教養教育・学生支援機構教授、同グローバルラーニングセンター副センター長、総長特別補佐（国際交流）））
ALPSプログラム 第5回シンポジウム （2020年2月）	大学における教学マネジメントの確立に向けて －学修者本位の教育の実現と教育・学修支援の役割－	日比谷潤子 氏 （国際基督教大学学長） 篠田　道夫 氏 （桜美林大学教授）

・千葉大学西千葉キャンパスにて集合型による開催。

・主な開催会場における利用人数の上限は88名。

・プログラム構成例 （セミナーを90分で開催した場合）

・挨拶・趣旨説明　5分
・講演　50分
・休憩　10分
・質疑応答　25分
・閉会

・セミナーは録画をしている。

・質疑応答では、参加者が挙手のうえ、質問を行う。講演者が直接回答する。

・質問数は5件程度。

②セミナー・シンポジウムの参加者数及び参加者の所属機関所在地（2019年度）

・ALPSセミナー（4回分）/ALPSプログラムシンポジウム：合計305名

（内訳：セミナー 219名、シンポジウム 86名）

・18都道府県（所属機関の所在地）から参加

北海道、岩手、宮城、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、石川、山梨、
岐阜、静岡、京都、大阪、兵庫、広島、愛媛、福岡

３．コロナ禍におけるSDプログラムの対応

（１）ALPS履修証明プログラムにおける対応

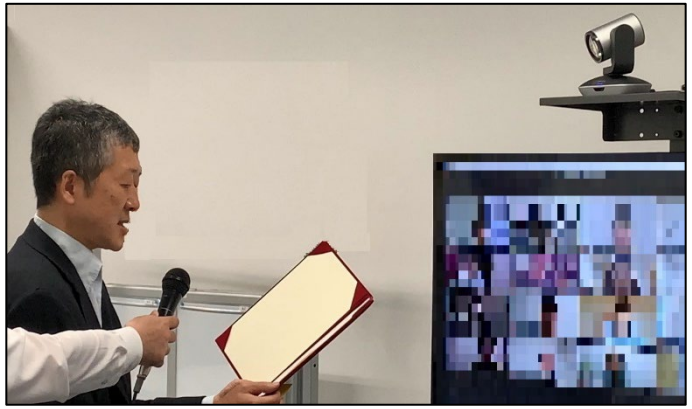
①2019年度生（第3期生）対象ALPS履修証明プログラム（2020年夏期に修了予定）

・2020年8月開講の対面授業を集合型からオンライン会議システムを利用して実施。

・8月の対面授業時に実施していた「プロジェクト研究・実習」成果報告会を9月下旬にオンラインにて実施。コロナ対応で多忙な履修生に配慮。

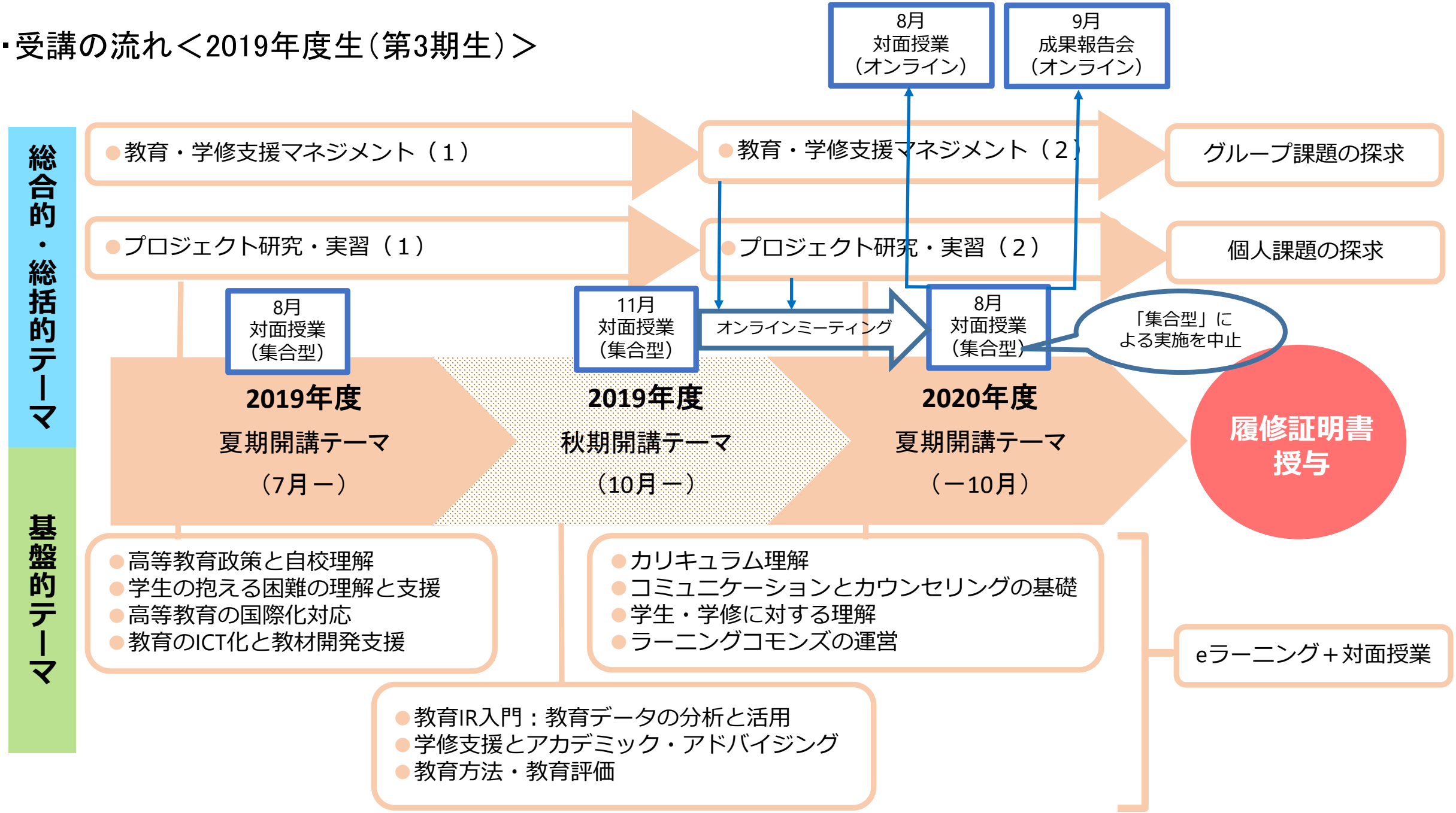
・オンライン会議システムを利用した対面授業に関する履修生からの意見はおおむね好評であった。

⇔しかしながら、グループワークをはじめとするオンラインによる対面授業が上手くいったのは、対面授業（集合型）ですでに顔を合わせているメンバーだったからではとの意見も履修生から出された。



オンラインによる修了式の様子

・受講の流れ＜2019年度生（第3期生）＞



②2020年度生（第4期生）対象ALPS履修証明プログラムについて

・通常のプログラムスケジュールを後ろ倒しにして実施。

	2019年度生	2020年度生
申込書類締切	2019年6月下旬	2020年9月下旬
eラーニング開講	2019年7月上旬	2020年10月上旬
対面授業（初回）	2019年8月下旬	2020年11月下旬・12月下旬

修了式・成果報告会	2020年9月下旬	2021年12月中旬

・プログラム開講期を3期（夏期、秋期、夏期）から4期（ターム１、ターム２、ターム３、ターム４）へと変更

・対面授業については、オンライン会議システム利用を中心に（オンライン3回、集合型1回（予定））

・オンライン会議システム利用を中心にしたことで、履修生のキャンパスへの来学回数を減らすことができるため、対面授業の開講期も3回から4回に増加することが可能に。

ただし、オンラインによる対面授業であることから、（身体的な負担という意味での）履修生の負荷を軽減するため、集合型による対面授業に比べ、1回あたりの期間や時間を少なくした。

・オンライン中心となることで、全国各地の教職員の方に受講していただくことを期待。
しかしながら、1都3県から11名の受講生にとどまる。（第1期生から第3期生では10～12都道府県から受講）
⇒コロナ対応による業務多忙が原因？

・受講の流れ＜2020年度生（第4期生）＞

総合的・総括的テーマ

- 教育・学修支援マネジメント（１）
- プロジェクト研究・実習（１）

オンラインミーティング

- 教育・学修支援マネジメント（２）
- プロジェクト研究・実習（２）

オンラインミーティング

グループ課題の探求

個人課題の探求

11月 ・ 12月
対面授業
（オンライン）

5月
対面授業
（オンライン）

9月
対面授業
（集合型を予定）

12月
対面授業
（オンライン）

2020年度
ターム1
（10月－1月）

2020年度
ターム2
（2月－5月）

2021年度
ターム3
（6月－9月）

2021年度
ターム4
（10月－1月）

履修証明書授与

基盤的テーマ

- 高等教育政策と自校理解
- 学生の抱える困難の理解と支援
- 教育のICT化と教材開発支援

- コミュニケーションとカウンセリングの基礎
- 高等教育の国際化対応
- 学修支援とアカデミック・アドバイジング
- 学生・学修に対する理解
- ラーニングコモンズの運営

- カリキュラム理解
- 教育IR入門：教育データの分析と活用
- 教育方法・教育評価

eラーニング＋対面授業

（2）セミナー・シンポジウムの対応

①セミナー・シンポジウムの対応（2020年度）

・Zoomによるウェビナー形式で開催

プログラム構成例 （セミナーを90分で開催した場合）

・挨拶・趣旨説明　5分
・講演　50分
・休憩　15分
・質疑応答　20分
・閉会

・質問は、専用の質問受付フォームを設けて、講演開始から休憩時間まで受付。
受付期間終了後、運営側で質問内容を整理して、講演者が回答。
または、質問内容に基づき、司会者から講演者へ質問を行い、講演者が回答。

②参加者数及び参加地域

・第1回ALPSセミナー （2020年7月開催）

-参加者数：169名

（2019年度セミナー（4回分）参加者数の77.2%に相当。）

-25都道府県（所属機関の所在地）から参加 （2019年度は全体で18都道府県）

北海道、宮城、茨城、栃木、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、富山、石川、長野、
岐阜、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、広島、山口、高知、福岡、長崎、宮崎

-参加者からの質問数：40件（集合型の場合、5件程度）

無記名の質問フォームの導入により質問数は増加。質問はしやすくなった？

一方で、

参加者が講演者に直接質問する機会はない。
講演者からの回答に基づき、さらなる質問を行い議論を深める機会がない。
休憩時、終了後に講演者と直接対話する機会はない。

・ALPSプログラム第6回シンポジウム（Zoom使用したウェビナー形式で実施）（2020年10月28日開催予定）

- 参加申込者数：206名（2020年10月21日時点）
- 33都道府県（所属機関の所在地）から参加申し込み

北海道、青森、岩手、宮城、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、
石川、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、和歌山、岡山、広島、徳島、
愛媛、高知、福岡、熊本、大分、沖縄

・第1回ALPSセミナー参加者数＋シンポジウム申込者数の合計：375名
（2019年度セミナー（4回）＋シンポジウム参加者数の合計305名）

⇒セミナー・シンポジウムでは人数・地域ともに大幅な増加・拡大

関係者はオンラインの力（凄さ）を実感

全国各地の方が教育・学修支援をテーマにした内容に関心を有していることが明らかになった。

③「セミナー受講証明書」申請理由に見る変化

・当センターでは、2019年度から、ALPSセミナーの参加者には、所属機関に対するSDプログラム参加の証明に資することを目的として、希望がある場合、センター長名で「セミナー受講証明書」を発行している。

・2020年度から、「セミナー受講証明書」申請に際し、申請理由を記入いただいている。

・新たに申請理由を記入いただいたことにより、オンラインでセミナーを開催するがゆえの、申請理由が見られた。

  ・勤務時間中にセミナーを受講することから、所属機関にセミナー受講した証明を提出する必要があるため

  ・勤務先（又は上長）に提出するため

・このような申請理由が申請数全体の6割を占める。

⇒このような受講証明を発行することが、職員の勤務時間中におけるオンラインによるセミナー参加の障壁を低くする一助となるのではないか。また、個室を用意しにくい職員にとって、参加しやすくするのではないか。

４．今後の課題と展望

	Before コロナ	With コロナ	課題・展望
ALPS 履修証明 プログラム	・2019年度生対象プログラムの実施形態 eラーニング（非同期） ＋ 大学キャンパスでの対面授業 3回（1年目夏、1年目秋、2年目夏） ＋ オンラインミーティング （教育・学修支援マネジメント/プロジェクト研究・実習）	・コロナ対応に伴う、2019年度生対象プログラムの実施形態の変更 eラーニング（非同期） ＋ 大学キャンパスでの対面授業 2回 （1年目夏、1年目秋） ＋ オンラインによる対面授業 1回 （2年目夏） ＋ オンラインミーティング ・2020年度生対象プログラムの実施形態 eラーニング（非同期） ＋ オンラインによる対面授業 3回 （2020年11月・12月、2021年2月、12月） ＋ 大学キャンパスでの対面授業 1回（予定）（2021年8月） ＋ オンラインミーティング	・eラーニング及びオンライン中心のプログラムへと改革したが、履修者数の増加や地域的な広がりは見られなかった。 ⇒2020年度は、コロナ対応による業務多忙のため？ ・2020年度生対象プログラムは対面授業を初回からオンラインで実施。グループワークが中心の対面授業で各グループの議論は活性化するのか？ ・当プログラムでは、修了生・履修生間、履修生同士のネットワークを重視しており、現在の状況で人的交流をいかに活性化するかが課題。 ・「教育・学修支援専門職を養成する実践的SDプログラムの開発・運営拠点」としては、全国からプログラム受講が可能な環境となることから、オンラインでの実施は有効であるとの立場を取る。

	Before コロナ	With コロナ	課題・展望
ALPS セミナー・ALPS シンポジウム	・千葉大学西千葉キャンパスにて集合型にて開催 ・主な開催会場における利用人数上限は88名。 ・2019年度の参加者数は305名（セミナー4回・シンポジウム） ・2019年度参加者の所属機関所在地は18都道府県 ・参加者からの質問数は5件程度	・ウェビナー形式による開催 ・質問は、専用の質問受付フォームを使用 ・2020年度の参加者及び参加申込者数は375名（セミナー1回・シンポジウム（開催予定）） ・2020年度の参加者の所属機関所在地は37都道府県 ・参加者からの質問数は40件程度 ・ウェビナー形式による開催により、受講証明書の申請理由として、 -勤務時間中にセミナーを受講することから、所属機関に受講した証明を提出する必要があるため といった理由が見られるように。	・参加者数の大幅な増加 ・参加者の地域の拡大 ⇒「教育・学修支援専門職を養成する実践的SDプログラムの開発・運営拠点」として、これまで以上に、全国の高等教育関係者に「教育・学修支援」の新しい動向や専門的知見を提供することが可能に。 ・質問受付フォームを使用することで、参加者が質問しやすい環境に ⇔参加者と講演者の直接対話は難しい？ ・受講証明書の発行が、職員にとってはオンラインによるセミナーへの参加の一助になるのでは？ ・参加者のみならず、全国から講師を招聘しやすくなる。

ご清聴ありがとうございました。